学校番号	T3011

令和８年度　工業科（A 系列）

教科	工業	科目	（学）自動車実習Ⅳ	単位数	３単位	年次	４年次
使用教科書	自動車整備士養成課程　三級ガソリンエンジン　（日本自動車整備連合会）						
副教材等	「自動車整備」（実教出版）、「自動車工学１」（実教出版） 「自動車工学２」（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて学んだことを生かし、自動車整備作業に必要な知識・技術を学ぶ。作業を通じて理解を深める。

2　学習の到達目標

【知識及び技術】
自動車の各分野に関する技術を実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
【思考力、判断力、表現力等】
自動車の各分野の技術に関する課題を発見し、自動車に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術 の進展に対応し解決する力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】
自動車の各分野に関する技術の向上を目指して自ら学び、自動車の発展に主体的かつ協働的に取り組む 態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	受講には 2 年の『自動車実習(自動車実習Ⅰと自動車実習Ⅱ』を修得していること。 本科目が未修得である場合には、三級自動車整備士免許技能試験免除資格は付与されない。 制御システム、エンジン調整、車体整備など自動車整備作業に必要な基本を学ぶ。	判断力､思考力から知識の応用ができる事。新しい発想力を身につける事。チームワークで作業ができるよう表現力がある事。冷静に判断し安全な作業が行える事。	自ら問題に取組む姿勢、積極的な作業に取組む態度。共同作業を通じて互いの信頼性を高める姿勢。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期		車体構造整備、各部測定を行う	a:構造を理解し作業ができているかどうか b:適切な工具を用い安全に留意し作業ができているかどうか c:自ら進んで作業にとりくんでいるかどうか	正しく理解し作業できているか	適切な工具の使用ができているか	自分から進んで作業し安全に留意できているかどうか
		ベンチエンジンによるガソリン機関の制御システム実習を行う	a:仕組みを理解し適切な作業ができているかどうか b:正しく工具の使用ができているかどうか c:自分で考え調整を行えているかどうか	正しく理解し作業できているか	適切な工具の使用ができているか	自分から進んで作業し自分で考えて取り組むことができているか
後期		車体電装品の点検整備を行う	a:正しく工具の使用ができているかどうか b:適切な作業を行えているかどうか、 c:自分で考え進んで作業ができえているかどうか	正しく理解し作業できているか	適切な工具の使用ができているか	自分から進んで安全に留意し作業ができているか
		旋盤、フライス盤による部品製作作業。安全な加工作業を習得する	a:正しく工具の使用ができているかどうか b:適切な機械操作ができているかどうか c:自分から進んで作業に取り組み安全に留意できているかどうか	正しい機械操作ができているか	適切な加工方法で作業ができているか	自分から進んで安全に留意し作業ができているか

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度